

## 2025年度ミニ観察会 一少人数でじっくり観察しようー クモの生態観察 2025

主催:NPO 法人自然観察大学 担当講師:浅間茂



入り口付近の植え込みにたくさんのクサグモの巣網



朝のうちは雨という予報により、30分繰り下げて観察会がはじまりました。

開始早々、コンクリートの壁面にヒラタグモの巣網が…  
少し前の“自然まるごと観察会”で観察したヒラタグモに出会いました。うれしい再会です。

( [https://sizenkansatu.org/pdf/2025/maru2025\\_2\\_6.pdf](https://sizenkansatu.org/pdf/2025/maru2025_2_6.pdf) )

スタート後は、ゆっくりクモの生態を観察しながら進行しました。

当日観察できた身近なクモの面白い生態を、出会った順番に整理してみました。

担当講師については【講師紹介】をご覧ください。( <https://sizenkansatu.org/kousishoukai.html> )

写真は担当講師または自然観察大学のものです。

この記事および本 HP の写真などの無断転載はお断りいたします。©2025 NPO Sizen Kansatu Daigaku

## 第1部 クモの生態観察

### <釣りの名人オオヒメグモ>

-クモの種類によって獲物の取り方は異なる-

オオヒメグモの不規則網の大部分は粘りません。

糸の先端1cmに注目してください。粘るのは粘球が付いている所です。糸が接触部分で細かく分かれているのは、不規則網を支えている部分です。

ただ単に付いている部分は、先端近くに粘球がついていて、それに獲物がかかると、糸は切れてその獲物をつり上げてしまいます。つり上がってしまいますから、獲物が暴れても大丈夫です。



参考:オオヒメグモの粘球

私は以前、トカゲをつり上げているのを見ました。大物ですから、数本の糸でつり上げていました。

今日は残念ながら、曇っていて粘球が見えません。太陽光線できらめく粘球を、天気の良いときにぜひ見てください。

### <今の時期に似たクモを簡単に見分ける方法>

-似た生活をしているクモは時期をずらしている-

#### ・クサグモとコクサグモ

両種は形態も生態もよく似ています。でも今の時期は一目瞭然、網の大きさで分かります。

先にクサグモが現われ、1か月遅れでコクサグモが出現します。

今の時期には、小さな網がコクサグモ、大きな網がクサグモです。

心配性の方は、腹部末端を見てください。コクサグモにはオレンジ色の部分があるので確認してください。



クサグモの幼体



コクサグモの幼体

◆コガネグモとコガタコガネグモ

コガネグモの仲間の幼体は、いずれも同じ色をしていて分かりませんが、今なら両種ははっきり違ってきます。

コガネグモは今の時期はかなり大きく、腹部の黒と黄色の帯がはっきりしています。

コガタコガネグモはずっと小さく、腹部は白っぽくて帯がはっきりしません。巣網にはぎざぎざの隠れ帯をつけています。

コガネグモは去年の夏に出囊して幼体で冬越しします。それに対しコガタコガネグモは卵囊の中で冬を越し、春に出囊するという違いがあり、それが成長の差に表れているわけです。



コガネグモの幼体



コガタコガネグモの幼体

◆サツマノミダマシとワキグロサツマノミダマシ

サツマノミダマシの名称は、鮮やかな緑色の身体がサツマ（ハゼノキの別名）の若い果実に似ているのが由来とされています。

この2種もよく似ていますが、今の時期はかなり違ってきます。

今、大きければサツマノミダマシ、米粒ほどであればワキグロサツマノミダマシです。



→ハゼノキ(別名サツマ)の若い果実



サツマノミダマシの幼体



ワキグロサツマノミダマシの幼体



興奮したオオシロカネグモの幼体

#### ・コシロカネグモとオオシロカネグモ

この2種は1か月ほど前だったらすぐに区別できたのですが、今はちょっと難しくなります。

今の時期、コシロカネグモは成体で交尾の時です。

オオシロカネグモは1か月ほど遅れた幼体ですが、こちらも身体は大きくなっています。いずれのクモも、興奮させると背中（腹部背面）の3本のすじが黒く太くなります。

普通この黒いすじが腹部上端まで達するのはオオシロカネグモです。

#### <他のクモの網に居候するクモ>

-クモの生き様もいろいろ-

シロカネイソウロウグモとチリイソウロウグモが観察できました。これらは観察会でも簡単に見られるクモです。

シロカネイソウロウグモは、仁丹のように小さく銀色のクモで、コガネグモ科のクモの網を注意深く見れば、すぐ見つかります。宿主の網に掛かった小さな獲物を盗み食いしています。

チリイソウロウグモは、クサグモの網にいるのをよく見かけます。クサグモの棚網の上にある不規則な網にいます。今はまだ小さなチリイソウロウグモですが、これからどんどん大きくなります。時には恩義を忘れて、宿主を襲うこともあります。クサグモの網に長い柄の丸い赤褐色の卵囊があれば、このクモの卵囊です。クサグモの卵囊は大きな白い多角形でまったく別物です。見た事ありますね。



シロカネイソウロウグモの幼体



チリイソウロウグモの幼体

### <網で見分けるジョロウグモ>

#### -目の細かさが一つの戦略-

ジョロウグモは小さい幼体の時から、目の細かい網を張ります。この細かい網は一目瞭然で、すぐにジョロウグモと分かります。

目の細かな網で小さな虫を捕らえて、ジョロウグモは急激に大きくなります。都会の公園でも見られるのは、この目の細かい網のおかげです。小さな昆虫しかいない都会でも生き延びることができます。

でも都会の中心部などではジョロウグモのいない公園もあります。そこには、虫さえないののでしょうか。



ジョロウグモの網は目が細かい

## 第2部 クモから環境を知る

この公園はクサグモがたくさんいますね。普通によく見られるクサグモですが、ここ21世紀の森と広場はクサグモだらけといってもよいでしょう。それに比べて、昨年まるごと観察会を実施した水元公園は、クサグモがほとんどいませんでした。

なにが違うのでしょうか。昨年の水元公園での観察コースでは草刈りが頻繁に行われていました。草刈りを頻繁に行うと、イネ科植物主体になります。消化しにくいケイ酸物質を含むイネ科植物を食べる昆虫はあまりいません。動物では牛や馬が食べますが、牛は胃が4個もあるし、馬は盲腸で消化します。

草刈りを頻繁に行うとどうしてイネ科植物主体になりがちなのでしょう。植物の生長点は一般に茎の先ですが、イネ科植物の生長点は株元にあります。刈れば刈るほど。イネ科植物優先になっていきます。植生が単純化し、昆虫は減っていくわけです。

21世紀の森と広場は多くの網が見られます。おそらく多くの昆虫がいるのでしょうか。環境の多様性はどうか、それはクモの種類数によって判断できます。

さて、“クモで環境を知る”というテーマで、全員でクモを採集しました。

25分間、クモを各自で採集します。その後みんなでそれを持ち寄って名前を確認します。



クモの採集にみんなでチャレンジ。フィルムケースにそっと誘い込む



みんなが持ち寄ったクモの名前を調べる

### 採集できたクモの種名

1 カタハリウズグモ	16 ジョロウグモ
2 クサグモ	17 ヤマシロオニグモ
3 コクサグモ	18 サツマノミダマシ
4 ウヅキコモリグモ	19 ワキグロサツマノミダマシ
5 イオウイロハシリグモ	20 コガタコガネグモ
6 ササグモ	21 ナガコガネグモ
7 ヒラタグモ	22 ゴミグモ
8 オオヒメグモ	23 ギンメッキゴミグモ
9 ヒメグモ	24 ヤマトコマチグモ
10 シロカネイソウロウグモ	25 シラヒゲハエトリ
11 チリイソウロウグモ	26 チャイロアサヒハエトリ
12 オオシロカネグモ	27 メガネアサヒハエトリ
13 コシロカネグモ	28 コメグモの一種
14 キララシロカネグモ	29 フクログモの一種
15 アシナガグモ	

第1部で見たクモも入れて、29種類×1種あたり1点で、合計29点となります。

その点数で環境判断すると、B判定(26~35点)で「水辺など湿地があり、環境に多様性がある公園」となります。

※ 調査終了後に、捕らえたクモはすべて放しました。

なお、今日は見られませんでした。コガネグモは良い草原の環境指標生物として5点、トリノフンダマシ類は小さな蛾を夜に捕食するので小さな蛾が住む良い環境を示すクモとして、3点のボーナス点になります。

コガネグモは下見の時はいたのですが、残念ながら今日は確認できませんでした。

### 第3部 クモ合戦

ハエトリグモの雄同士の戦いは、とくに雌を巡る場合は激しくなります。ハエトリグモは目が良く、第一脚の長さによってほぼ勝敗が決まる時もあるし、組み討ちになる場合もあります。

残念ながら、この日は天気が悪く同じハエトリグモの雄が見つからず、同種の合戦はできませんでした。別の種類のクモ同士の戦いを見てみようと思いましたが、大きさの違いもあり、小さいほうは逃げ回っていて合戦には至りませんでした。

以前、ネコハエトリ同士の合戦を行ったことがあります。それは5月でした。今の時期(6月)はアオオビハエトリが最適かなと思います。解散後、食事後に日が差し始め、アオオビハエトリが葉の上を歩き回っていました。

合戦では地方によってクモの種類が異なります。有名な所では鹿児島健加治木町のコガネグモの雌、神奈川県や千葉県の海岸地方のネコハエトリの雄です。

今後自然観察大学の観察会で、アオオビハエトリの雄を持ち寄り、クモ合戦を始めるのも面白いですね。



アオオビハエトリの雄同士の戦い

## クモ目録

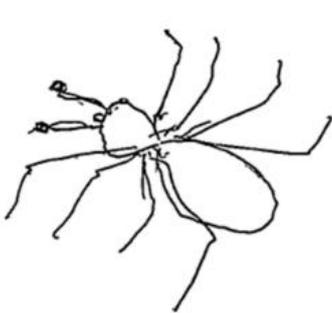
21世紀の森と広場で6月8日、15日（下見と観察会本番）に観察したクモの目録です。

ジグモ科	1.ジグモ		
ユウレイグモ科	2.ユウレイグモ		
ハグモ科	3.ネコハグモ		
ウズグモ科	<b>*4.カタハリウズグモ</b>		
タナグモ科	<b>*5.クサグモ</b>	<b>*6.コクサグモ</b>	
コモリグモ科	<b>*7.ウツキコモリグモ</b>		
キシダグモ科	8.アオグロハシリグモ	<b>*9.イオウイロハシリグモ</b>	
ササグモ科	<b>*10.ササグモ</b>		
ヒラタグモ科	<b>*11.ヒラタグモ</b>		
ヒメグモ科	<b>*12.オオヒメグモ</b>	13.カグヤヒメグモ	<b>*14.ヒメグモ</b>
	<b>*16.シロカネイソウロウグモ</b>	<b>*17.チリイソウロウグモ</b>	
アシナガグモ科	<b>*18.オオシロカネグモ</b>	<b>*19.コシロカネグモ</b>	<b>*20.キララシロカネグモ</b>
	22.ヤサガタアシナガグモ		
コガネグモ科	<b>*23.ジョロウグモ</b>	<b>*24.ヤマシロオニグモ</b>	<b>*25.サツマノミダマシ</b>
	27.コガネグモ	<b>*28.コガタコガネグモ</b>	<b>*29.ナガコガネグモ</b>
	31.ヤマトゴミグモ	<b>*32.ギンメッキゴミグモ</b>	
アシダカグモ科	33.コアシダカグモ		
エビグモ科	34.キハダエビグモ	35.アサヒエビグモ	
カニグモ科	36.キハダカニグモ	37.コハナグモ	38.ハナグモ
コマチグモ科	<b>*40.ヤマトコマチグモ</b>	41.ヒメフクログモ	42.ムナアカフクログモ
ハエトリグモ科	43.マミジロハエトリ	<b>*44.シラヒゲハエトリ</b>	<b>*45.チャイロアサヒハエトリ</b>
	<b>*46.メガネアサヒハエトリ</b>	47.アオオビハエトリ	

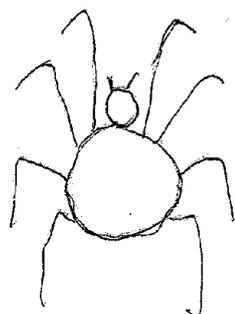
なお不明種として、\*コメグモsp.aと\*フクログモsp.aが記録された

\*太字は観察会で観察・採集したクモで29種類

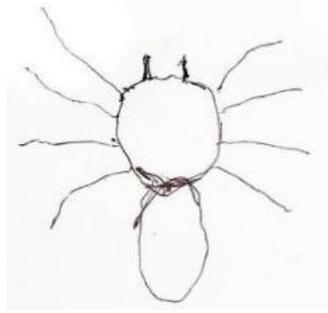
最後にプリントを配布しました。そこに“好きなクモの絵を描こう”という欄があり、クモの絵を描いてもらいました。その一部を紹介させていただきます。



KSさん



TKさん



YGさん



FMさん(好きではないけど)

体はいくつに分かれている？ 脚は何本？ その脚はどこから出ている？  
みなさんもチャレンジしてみてください。

後日アンケートで寄せられた質問に対して浅間先生からご回答いただきました。その一部を紹介させていただきます。

Q 同一種の雄雌で、クモの巣網の張り方は違うのでしょうか？ (TKさん)

A 雌雄では網の張り方は、私の見ている限り、同じです。雄は成体になると網を張れなくなり、雌探しの旅に出かけます。

Q 交尾は雌の脱皮中とかに機会が限定されているとのことですが、交尾機会のハードルが高い(と感じられる)のはなぜなのでしょう？ (YMさん(山口正明さん))

A クモは動くものは、餌として何でも捕らえます。とくに網を張るクモは、雄の方が小さいものが多いです。雄は求愛の糸で求愛信号を送りながら近づいて行きますが、雌の反応次第で食べられてしまいます。また交尾が終わっても、すぐに逃げないと食われてしまいます。そのため、雌の脱皮中や餌を食べている時が良い機会です。ただ脱皮後すぐに交尾ができるクモと、できないクモがいます。

Q 繁殖のために雄と雌が出会う機会についての質問です。

記録数が少ない種などはどのようにして相手を探すのでしょうか。またフェロモンを出すと聞きましたが届く範囲についてなどをご教示ください。

A 雌との出会いのために、すべての雄は網を捨てて、徘徊しながら雌を探します。コモリグモのしおり糸には、性フェロモンがついていて、それを目安に近づいていきます。ハエトリグモは目が良いので求愛ダンスをします。同じ種類であれば反応します。ジョロウグモの網に、複数の雄が入り込んでいるのを見たことがあると思いますが、やはり糸に性フェロモンがついているのでしょう。クモの出会いには、性フェロモンが大きな役割をはたしているようです。

参加いただいたみなさん、担当いただいた浅間茂先生、スタッフの石川明さん、ありがとうございました。

写真協力: 田上博昭、レポートまとめ: 大野透

.....以下、終了後に見つけたものなど、おまけの写真です.....



獲物を捕らえたササグモ



ナガコガネグモの幼体



ギンメッキゴミグモ



カグヤヒメグモの幼体



アオオビハエトリ



オナガグモの幼体(正体を現したところ)



コシロカネグモ



ヤサガタアシナグモ



↑ 葉の裏でユウレイグモが卵塊を抱える  
→ 終了後に見つけた冬虫夏草(右は掘り出した)

